

会員行動規範

(趣 旨)

第1条 特定非営利活動法人 日本歯科保存学会(以下「本会」という。)は、本会定款第3条に定められた目的を達成し、かつ社会的責務を果たすうえで守るべき会員の行動規範をここに定める。

(会員の責務)

第2条 会員は、自らが有する歯科保存学の専門知識、技術及び経験に基づいて、人々の健康と福祉に貢献する責務を負う。

(会員の行動)

第3条 会員は、歯科保存学の研究、診療行為及び専門医制度が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、常に正直、誠実に判断し、行動する。また、歯科保存学によって生み出される知識・技術の正確さや正当性を、科学的に示す最善の努力をするとともに、会員相互の評価に積極的に参加する。

(自己の研鑽)

第4条 会員は、歯科保存学の知識・技術の向上維持に努めるとともに、広い視野に立ち、会員としての意義と役割を十分に認識し、常に最善の判断と姿勢を示すように弛まず努力する。

(説明と公開)

第5条 会員は、歯科保存学の意義と役割を公開して積極的に説明し、その結果を中立性・客観性をもって公表するように努める。

(研究及び研修活動)

第6条 会員は、研究及び研修活動等において、データの記録や保存を厳正に取り扱い、ねつ造、改ざん、盗用等の不正を為さず、またこれに加担しない。

(研究環境の整備)

第7条 会員は、責任ある研究の実施と不正行為の防止を可能にする公正な環境の確立・維持も自らの重要な責務であることを自覚し、本会組織の研究環境の質的向上に積極的に取り組む。また、これを達成するために社会の理解と協力が得られるよう努める。

(法令等の遵守)

第8条 会員は、研究、研修及び診療等の活動の遂行、並びに研究費及び本会資産等の運用にあたっては、法令や本会の関係規則を遵守する。

(研究対象等への配慮)

第9条 会員は、本会学術大会発表における患者プライバシー保護に関する指針及び編集委員会倫理規程を遵守し、研究協力者の人格、人権を尊重し、福利に配慮する。動物等に対しては、真摯な態度でこれを扱う。

(他者との関係)

第10条 会員は、他者の成果を適切に批判すると同時に、自らの研究に対する批判には謙虚に耳を傾け、誠実な態度で意見を交える。他者の知識的成果等の業績を正当に評価し、名誉や知的財産権を尊重する。

(差別の排除・利益相反)

第11条 会員は、研究、研修、教育及び診療等の活動において、人種、性、地位、疾患、思想及び宗教等による差別を排除し、個人の人格と尊厳を尊重する。また、個人と組織、あるいは異なる組織間の利益の衝突に十分に注意を払い、公共性に配慮しつつ適切に対応する。

附 則

この規範は、平成20年6月5日から施行する。